

付着生物ラーバ情報

マボヤの付着は終了しました

1 ラーバの出現状況

直近のラーバ等の出現数は表1のとおりです。

(1) ユウレイボヤ

ラーバは12月22日に奥内沖で0.8個体/m³、12月9日に久栗坂沖で0.6個体/m³、12月23日に久栗坂沖で1.7個体/m³、川内沖で3.1個体/m³見られました(図2)。

(2) マボヤ

ラーバは12月9日に奥内沖で19.2個体/m³、久栗坂沖で8.9個体/m³、奥内沖で12月22日に0.8個体/m³、野辺地沖で12月10日に2.3個体/m³、12月23日に久栗坂沖で5.6個体/m³、川内沖で0.8個体/m³、卵は12月9日に奥内沖で17.5個体/m³、久栗坂沖で5.0個体/m³、12月10日に野辺地沖で1.6個体/m³、12月22日に奥内沖で7.5個体/m³、12月23日に久栗坂沖で13.3個体/m³見られました(図3)。

(3) キヌマトイガイ

ラーバは12月9日に奥内沖で0.8個体/m³、久栗坂沖で3.9個体/m³、12月6日に野辺地沖で1.6個体/m³、12月23日に久栗坂沖で7.7個体/m³、野辺地沖で0.8個体/m³、川内沖で20.3個体/m³見られました。

(4) その他

アミクサの小枝は12月9日に久栗坂沖で3.9個体/m³、野辺地沖で12月6日に9.4個体/m³、12月10日に2.3個体/m³見られましたが、オベリア類のクラゲは見られていません。

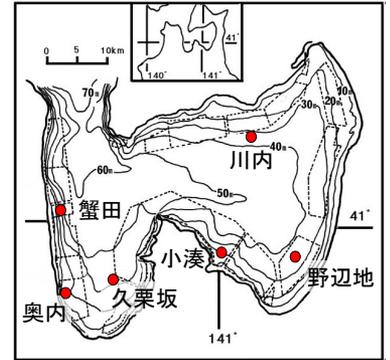


図1 ラーバ調査地点

表1 ラーバ等の出現状況

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	サラボヤ	マボヤ		キヌマトイガイ	ムササキイガイ	オベリア類 クラゲ	アミクサ 小枝
				ラーバ	卵				
奥内沖	R2.12.9	0.0	0.0	19.2	17.5	0.8	10.8	0.0	0.0
	R2.12.22	0.8	0.0	0.8	7.5	0.0	15.0	0.0	0.0
久栗坂沖	R2.12.9	0.6	0.6	8.9	5.0	3.9	12.8	0.0	3.9
	R2.12.23	1.7	0.0	5.6	13.3	7.7	18.3	0.0	0.0
野辺地沖	R2.12.6	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	35.2	0.0	9.4
	R2.12.10	0.0	0.0	2.3	1.6	0.0	22.7	0.0	2.3
	R2.12.23	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	5.5	0.0	0.0
川内沖	R2.12.23	3.1	2.3	0.8	0.0	20.3	20.3	0.0	0.0

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

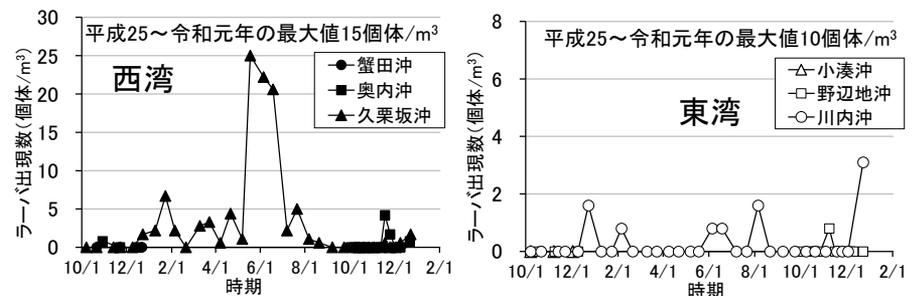


図2 ユウレイボヤ出現数の推移 (令和元年10月～令和2年12月)

2 今後の見込み

現在、陸奥湾の中層水温は7～12℃台です。ユウレイボヤは、例年10～12月にラーバが出現します。奥内沖では累積ラーバ数が6.7個体/m³と増加しており、沈めている施設で分散済みのパールネットにユウレイボヤの付着が見られています。来春出荷時に大量付着している地区が出てくる可能性があります。

マボヤのラーバが減少しています。卵は見られていますが、ラーバは9℃以下になると活性が低下し、泳げなくなることが分かっています。水温が低下してきたので、付着は終了したと思われる。

キヌマトイガイのラーバの出現が昨年より早いことから、早い時期に籠や耳吊り、マボヤ採苗器へ付着するものと思われる。

アミクサ小枝の本格的な出現は12月以降、オベリア類の付着は年明けになるものと思われる。

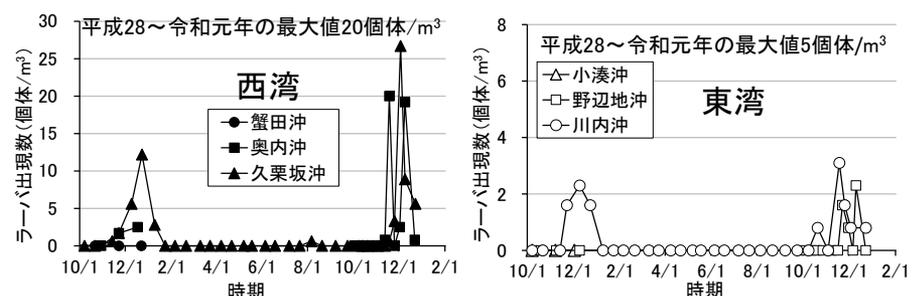


図3 マボヤラーバ出現数の推移 (令和元年10月～令和2年12月)

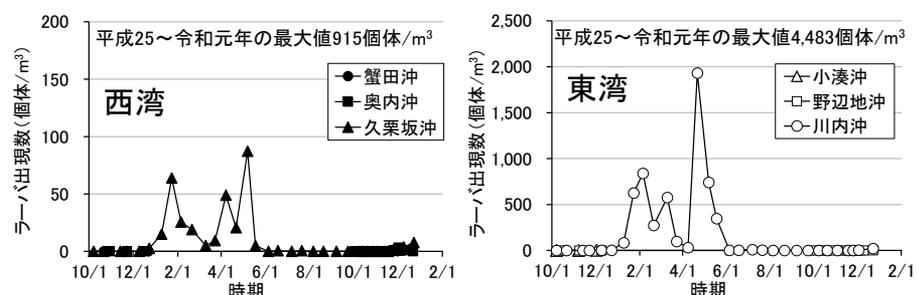


図4 キヌマトイガイラーバ出現数の推移 (令和元年10月～令和2年12月)

